

## 企業の安定化

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

インダストリー4.0という新しい潮流は、マシナリープロダクションにおいて、最も優れた品質の構築と最も高い生産性を実現できるのである。これらはテスラなどにける先端企業おシステムはこれに準ずるものであり、全ての生産業者において、これら現実はもはや否定できないのである。

他方においてこれは生産国における新しい賃金体系を実現するものである。これらは企業戦略の見直しにおいて企業が優れた自己環境を実現できることを意味するものである。

これらは企業の全ての現実のデジタル化は、もはや現実において否定できないのであり、他方においてこれらが企業における新しい可能性を与えることも真実雨である。

これらはデジタル化における顧客管理やアフターサービス、製品管理や、新規小売流通環境への転換など、ビックデータとデジタル化への転換は、新しい企業環境を実現できるものであり、将来においてこれらは避けられない選択である。

これら生産性と効率性の向上は、新規製品価格と企業経営などへの新規企業基準において、遥かに高い利益性を実現することができるのである。

これらが絶対的な時代と未来への企業の安定性の構築なのである。

競争というビジネスルールは、勝ち組と負け組を産んだのである。その競争が与える企業の向上は、先端MBAにおいて、唯一自己に求められるものである。

これら現実というスタンダードは、世界におけるトップ企業が有する新しい未来という現実を否定することは企業社会において不可能なのである。

そのため自己がそれら現実への参加と到達を行い、新しいグローバル市場の統一という現実への参加を行う以外選択はないのである。

どのようなローカルな現実においてもグローバル基準を否定することはできない。アベノミクスが既存現実からグローバルスタンダードへの転換であることは正しいのである。